

別冊

おおいしだものがたり

～資料館資料編～ ■「大石田町と町並みと」展より

資料館では昭和期の大石田町に焦点をあてた企画展を五期にわたって開催しており、現在はその内第四期「大石田町と町並みと」の最終週を迎えています。今回の展示では大正から昭和期の大石田町の様子を写した古い写真を取り上げていますが、古写真の良いところは当時の風俗を視覚的に知ることができるという点です。

昭和4年撮影の『雪の本町通り』と昭和11年頃の撮影『大石田雪積』は、本町通り付近の冬を写した写真です。通りの両側には、身長の何倍もの雪の壁がそそり立ち、雪壁の隙間を人々が歩いています。「流雪溝が導入される以前は積雪を角型に切り出して路肩に積んでいた」と言葉のみで説明されても、その景色や状況はなかなかイメージできないものです。しかしこうして写真で見ると、雪の壁の圧迫感や底冷えする冬の寒さまで感じることができます。この他にも、最上川に浮かぶ「ザイ」や積雪の中行われる初市の様子など、現在は見られなくなった自然現象や町の賑わいといった、往時の大石田を偲ばせる写真もあります。

この展示では最上川沿いの景観も多数紹介していますが、川沿いの家の建築様式や、そもそも最上川に隣接して立ち並ぶ家々は、堤防の築堤以降見られなくなった景色です。しかしそんな川岸の変化の中にあって「大橋」の姿はいつも変わらず、写真の中に大橋を見つけると古き知り合いに逢ったかのようにほっとてしまいます。永久橋の大橋が完成したことを記念し、昭和6年から花火大会が始まりましたが、まさにその当日、大橋上の人々を撮影した写真があります。画面の明るさから、花火には未だ間のある早い時間から大橋に多くの人々が詰めかけたことがわかります。夏の暑さと共に打ち上げを今か今かと待ちわびる観客の息遣いまで伝わってくるようで、このような雰囲気は現在も変わらないものではないかと思われます。

以上は今回の展示のほんの一部ではありますが、大石田町のところどころを古写真で振り返ってみると、現在とは全く変わってしまった暮らしぶりもあれば、現在の町並みにもその名残を確かに残しているものがあることがわかります。そんな異同を感じつつ、さらには記憶の中の町並みを思い起こしながら楽しんでいただければ幸いです。



新町発足70周年記念企画展第四期「大石田町と町並みと」は2月1日(日)まで



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を
受け取ることができます。

友だち登録をお願いします！

登録方法
右の二次元コードを読み取って友だちに追加してください。

大石田町公式LINE

**防災放送の内容を
電話で確認できます**

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル: 0237-48-8444

■総務課総務グループ Tel35-2111 (内線218)

町の人口 令和8年1月1日現在		
世帯数	2,187戸	(- 2)
総人口	5,754人	(- 4)
男	2,875人	(+ 1)
女	2,879人	(- 5)
(12月中の異動)		
出生	1人	転入 14人
死亡	14人	転出 5人

※この人数は外国人も含めたものです。